



# ひだまり

2026.5.20 No.4

## <自然との関わり・生命尊重編>

大自然の中に囲まれている吉川保育所。所庭でも沢山の生き物がいます。ダンゴ虫はもちろんのこと、てんとう虫、チョウチョ・ミズミズなどなど。生き物を見つけると捕まえたり触ったり、観察したり、時には「飼育したい」と思う事もあります。自然などの身近な事象に関心をもつことや、身近な動植物に親しみをもって接することから興味・関心を広げていきたいと思ひます。

くま組は、この地域でクマガイソウの管理や、ゴマダラ蝶などの飼育をされている小嶋さんに、サナギの姿を見せてもらったり、優しくだったらサナギを触ってもいいこと、孵化して一日経ったら放蝶することなどを教えてもらい、18日に初谷溪谷まで行って2頭放蝶しました。「ゴマダラ蝶は”エノキ”の木がないと育たないんだよ。」と教えてもらい、貴重なゴマダラ蝶が生息できる環境が豊能町にあることも教えてもらいました♡

ダンゴ虫って足いっぱいついてるな。何食べるんやろう？と調べました。

自分が思う意見を友だちと伝え合いながら生き物の生態や生活をより深く考えられるようになっています。



「あっ！アゲハ蝶の幼虫が変身してる！緑色になってる！」(黒い幼虫が緑色になっているのを発見したのです。脱皮まで見る事ができました。)

身近事象への関心が高まると共に愛情やをもち、変化を感じ取り、好奇心をもって考え、言葉などで表現しています。

ダンゴ虫を歩かせる道を作っていました。土を掘って見守っていたのですが、なかなか思いように歩いてくれません。そこで積み木で迷路を作って、どのように歩くのか観察しました。

ダンゴ虫は同じ所には返ってこないという、法則を実感的に気づいた子どもたちです。



初谷溪谷を登っていくと、少し開けた所に数本”エノキ”が自生しています。保育所で飼育している幼虫は、冬に小嶋さんが見つけて、子どもたちが観察できるように保管していただきましたそうです。

みかんの木にアゲハ蝶の卵があることを知った子どもたち♪ドキドキしながらみかんの木を見ると、小さな幼虫を見つけました。緑ではない幼虫にびっくりした子ども達です。



なんで緑じゃないの？と不思議そうにのぞきこんでいる子どもたちです。「葉っぱ食べないの？」と心配そうに見ていました。

次の日、綺麗な緑色に変身した幼虫を見て大喜び♪幼虫の成長を子どもたちと見守りながら、生き物を大切にする気持ちを育んでいきたいと思ひます。



自然との関わり・生命尊重

言葉による伝え合い

2グループに分かれて子どもたちが円になり、手の平を上にして友だちとくっつけると、蝶が子どもたちの手の上を歩きだしました。しばらくすると空に舞い上がり、子どもたちは大喜びでした♡